

## 令和3年度関西支部定時総会 支部長挨拶

関西支部 支部長 梅田 直哉

この度、関西地区の代議員の皆様のご支持を得て、関西支部長を拝命いたしました大阪大学の梅田でございます。関西支部は、伝統ある関西造船協会を前身とし、今日では日本船舶海洋工学会の中核のひとつとして重要な役割を担っております。これまでの関西支部への皆様のご支援、ご貢献に深く敬意を表するとともに、今後についても引き続きぜひよろしくお願い申し上げます。

関西造船協会、日本船舶海洋工学会は、和文名こそ学術のみの団体の様にも響きますが、英文名では **Society of Naval Architects** という文言が含まれることに明らかなように、**Naval Architect** そして **Ocean Engineer** の集まりであるのが本質です。この点では、理学、農学分野や航空宇宙などの新分野の学会とは異なり、むしろ英国の **RINA** や米国の **SNAME** と通じるところです。すなわち、**Naval Architect** と **Ocean Engineer** こそが主役であり、一部研究者だけのための組織ではありません。**Naval Architect** と **Ocean Engineer** が会社などの組織を越えて、船舶海洋工学という学術を共通の言語として集まり、切磋琢磨してそれぞれの技術を磨いて社会に貢献する、これが本来の姿であると考えます。その意味で、関西支部長にも本来は **Naval Architect** か **Ocean Engineer** になっていただくべきところと思います。例えば、戦後最初の関西造船協会長を務められた和辻春樹博士は、あるぜんちな丸、こがね丸、しろがね丸など幾多の名船を、機能追及を美のレベルまで高めて設計されました。ご著書の「随筆船」を拝読すると **Naval Architect** かくあるべしとの思いに触れることができます。また、前支部長の故竹田太樹様も、通常動力の **Submarine** を世界最高レベルで建造された真の **Naval Architect** でいらっしゃいました。その意味で船舶の設計や建造にかかわらない **Naval Architect** とも言い難い梅田が務めるのは忸怩たる思いではありますが、ここはつなぎ役として **Naval Architect** の皆様のご支援に徹し、地域の **Naval Architect** に役立つ活動を心がける所存です。

本来この **Naval Architect** という **Status** は、大学の船舶海洋工学科を卒業することで自動的に得られるものでなく、この日本船舶海洋工学会の正会員として継続在籍して地域の支部活動等で研鑽することによるべきでしょう。すなわち、どのような分野のご出身でも、ここの会員である限り、社内の職域を変更されても、**Naval Architect** といえます。ただ現状、真の **Naval Architect** の一部の皆様にも、学術活動や学会運営へのご協力で多大なご負担をお願いしているところです。我が国各社の技術者の数が競合国に比べて少ないことを考えれば、このような状況は速やかに整理してご負担を軽減することで、本来の活動に時間をより割いていただきたいところです。また、わが国の



日本船舶海洋工学会 関西支部  
支部長 梅田 直哉



技術優位を確保するためには、現在真に求められる技術課題について学術面での貢献を行わねばなりません。それは、脱炭素であり、自動化であり、デジタル化であり、それらの国際競争力、安全保障の確保です。これらについて関西支部はすでに対応を進めているところです。また、現在に止まらず、その先の未来を予測していかねばなりません。それには、これまでの船舶や海洋開発の歴史を知る必要があり、そのような活動にも関西支部は積極的に取り組んでおります。このことは、決して歴史を知ること自体が目的でなく、将来を予測することが最終目的なので若い世代の方々にもより注目いただければと思います。

以上のように、関西地域で活躍される **Naval Architect** と **Ocean Engineer** の皆様の **Identity** を確保し、その活動で実際の市民生活を豊かなものとして社会に還元する場として、この関西支部を引き続き、ご利用しご支援いただければ何よりと存じます。

令和3年5月14日 関西支部定時総会  
(オンライン開催)